

【米澤氏】

もう十分な情報が出てきたと思いますので、なるべく手短にお話をさせていただきたい
と思います。いくつかポイントだけを絞っていこうと思いますが、ここでのポイントは、
やはり日本として特に日本の私立大学としてどうするのかということについてお話をさせ
ていただきます。

ひとつまず申し上げるべきなのは、今日に関しては中国と韓国、それから日本の動きを
見たわけですが、こうした動きは実際には中国、韓国だけではないということがま
ず一点申し上げたいことでございます。これは資料がありますが、実はこの部分は世界の
中で見ると中国の大学人口の伸びは、これだけしかありません。要するに過去 10 年間に世
界の大学人口は 7 千万人くらい増えています、その中で中国、韓国にとってもこれは実
は大きな動きであって、また我々にとっては東日本大震災というのは大きなダメージにな
り得るということが一点でございます。

その上で見ていただきたいのですが、この 330 万人というのは実は日本の高等教育人口
に匹敵する大きさでありまして、その意味でも留学というものが持ってくるインパクトと
いうのは大きいということです。それから実は過去 10 年間をみると、アメリカに対しての
留学生のシェアは実は減っています。これは 9.11 以降ですけれども、そういう意味でいえ
ば、日本人がアメリカに行かないということは、決して日本だけの話ではなく世界のトレ
ンドであるというようなことをご理解いただけたと思います。

次に東アジアの国際化の構造ですけれども、ひとつは今日のお話でおわかりになると思
いますが、コメントとして印象に残りましたところは、送り出し自体はむしろ規制緩和的
に行われてきたということでございます。細かいところは申し上げませんが、これに対し
て今日本は組織的に送り出しをしているわけですが、もしかしたら同じように頭脳
流出の問題を抱える可能性もあるかもしれません。

それから同じような方向に見えますけれども、かなり違うのが 3 つの国だと思
うのですが、特に受入れについては、日本はやはり一日の長があるという言い方も出来るかもし
れません。日本は 80 年代に始めたわけですが、先生方のお話からわかりますように、

韓国は 2000 年代に入ってから、中国はごく最近というふうに言っているのではないかと思います。

ただしグローバル化の中で、頭脳が循環しているという方の送り出しの形としては共通的な課題としてありまして、受入れ国に転換したからといって必ずしも送り出しが収まっていくって言うことは、中国、韓国に関してはないだろうというふうに思います。それと同時に中国、韓国について細かいところはともかくとして、あえて言えば日本に比べて経験不足というふうに言うこともできる点もいくつかあったのではないかと思います。それから同時に後発効果というか、新しくやっているので逆に日本よりはるかに優れている部分がたくさんあったという言い方も出来るかと思います。

その中でひとつだけ資料の中で注目いただきたいのは、これは JASSO（日本学生支援機構）が作られたもので、私費留学生の収入源がどこからきているかというものです。実は総額で見れば、現在においても日本の一般的な学生に比べて留学生の生活費というのは年間 100 万円くらい低いです。そういう意味では決して恵まれているわけではないですが、ひとつ大きな変化としては 2000 年から 2010 年にかけて、親から仕送りをもたらってくる学生のシェアが増えているということです。これは我々が元々持っていた古い留学生像と現在来ている留学生像の間に、大きなギャップが存在しているということはやはりおさえるべきでありますし、このことは既に先生方のお話の中で色々な形で触れられたのではないかと思います。

その上で日中韓の私立・民営高等教育ですけれども、これには大きな違いがあります。中国に関して具体的に申しますと、ひとつは国立大学の供給不足が生みだしているところがありまして、ある意味では定員外のところを民間あるいは独立学院みたいな形で埋めてきましたし、うまく規制を抜けていったという部分もないわけではありません。それから中にいる方々がかかなり違う層がありまして、ひとつはその新中間層としてのゆとりから進学する層と、もうひとつは国立大学に届かない層というものです。これは経済的に、階層的に届かない層というのが両方入っているということでございます。同時に、中国に関し

ては周辺の位置づけを抜けていないし、今後も民営高等教育機関や独立学院が爆発的に増えるということはあまり考えられないと思います。

これに対して中国の私立大学、高等教育の間には著しい多様性があります。ひとつはトップ大学でありまして、これは長島先生のお話にありましたように民間資源を入れてかつ国の研究資金というのがどんどん入ってきています。一方で定員割れ大学に関しては日本よりはるかに厳しくて、その撤退勧告を受ける大学やそれから入学生受入れを許可されない大学というのが存在しているわけでありまして。その意味であえて日本について言えば、成熟した私立大学システムであるというふうに言うことができると思います。その中で韓国は似ているといってもかなり違って、長期にわたって大学破たんというのがある一方で、それに対して対策も立てられていて、質の保証や学生の管理とか、あるいは緩さという意味での自治みたいなものと、両方が成熟した対応であるということです。それから国際教員の取り組みについて高い経験値を実は韓国、中国に比べて持っているのですが、それゆえに色々な失敗をしていますので、なかなか冒険がしにくいという点がございます。

その上で日本の私立大学の示唆ですけれども、ひとつはライバルなのか総合依存を深めていくのか、少し冷静に考えていく必要があるのではないかと思います。日中韓はそれぞれ全て非英語圏です。これはやはり話を聞いていると、勢いがありますのですごいことになっているかと思いますが、一方で長期的にあるいは客観的に見た場合には、シンガポールとか、香港の間との間にはまだ大きな違いがあると思いますし、これは日本も決してそういう意味では中国、韓国と遠いわけではないと思います。

同時に関係が水平化、双方向化が進む半面で、中国と韓国が進む方向性と日本が歩んでいる方向性が逆だということです。具体的には日本が送り出し国になっていくことは、どうということなのかということはまだ我々はよくわからないところがありますし、中国、韓国が受入れ国になるという状況は我々が経験してきたことはかなり違うものになっていく可能性があります。

その中で、文部科学省も含めて大学が進めていくべきなのが、共同教育、ダブルディグリー等の組織レベルでの交流ですけれども、これがどこまで進んでいくのかが大きな課題

になると思います。同時に私立大学としては私立大学といった感じがあるかもしれませんが、おそらく日中韓の関係が国—国—国、あるいは私—私—民というふうにはならないのではないかと感じます。つまり国立と私立が入り混じった形で、三国間で交流していくような形が十分考えられるのではないかと思います。それと同時に日本の大学が持つ実力を冷静に受け止める必要があるかと思います。研究の層の厚さに関しては、やはり国立大学を中心に日本全体は厚いのではないかと思います。ただ、それゆえに国際的頭脳循環では遅れる。つまり次世代の研究者を今でも日本は作り得る力がありますので、その分だけ国際的な頭脳循環では遅れる。

一方でその私立大学の教育の質は一般的には高いと思いますし、また柔軟さも持っていると思います。これは韓国、中国の質が低い私立高等教育あるいは民営高等教育と見た場合には、日本というのははるかに良いところまでいっているのではないかと客観的に見ていいのではないかと思います。ただそれゆえに世界の影響との間に保護壁みたいなものがあって、なかなか国際的なところに入っていけない部分はあると思います。

アドミニストレーションのことについては、寮の写真で言われていましたけど、良さと弱点の両方があると思いますので、これは十分に検討する必要があるのではないかと思います。

最後に今後のビジョンですけれども、これは韓国、中国に関して、今まで出てきたお話の中で触れられていたキーワードは国としてのソフトパワー、魅力というものをどうやって高めていくかということと一緒に考えるというような部分が韓国、中国は日本に比べてずっと組織的に行われているのではないかと感じます。これは逆に言えば、水畑さんが地域というところでおっしゃったことと、実はかなり連携した部分でありまして、日本という形でも当然ですしあるいは地域という形かもしれませんが、社会全体とどうやって国際的な魅力を高めていくかというのが、おそらく私立大学にとっての大きな役割になると思います。その中で政府の留学政策をエリート人材育成的なものから、量的交流や親日派形成へと転換させる方向へと多角化していく。多角化というのは、要するにエリート人材を捨てるという意味ではなくて、両方やっていくということがおそらく必要で、こ

これは既に始まっているという形も出来るのではないかと思います。ショートステイ、ショートビジットというのは、更に萌芽的なものではないかと感じます。

最後に地球市民形成というのを申し上げましたが、別に英語が出来なくても、あるいは中国語が出来なくてもそれを理解して一緒に生きていこうという意味での地球市民というのはやっぱり必要で、これが社会を開放的にしていくわけですけれども、そのための日本の大学教育の推進というのが、もっと求められてもいいのかなと考えます。その意味では高等教育あるいは私立大学というのは、社会の国際インフラを作っていく上で、色々な貢献の仕方があるのではないかというふうに考えます。

以上で簡単ですが、コメントを終わらせていただきます。ありがとうございました。